

裁量労働制実態調査の集計、二次分析に当たっての補足事項

1. 労働時間の表章について

(1) 平均時間について

- 平均値の計算に当たっては、実労働日数ベースの平均（日数平均）を基本としながら、従事労働者数ベースの平均（人数平均）についても表章することとしている。それぞれの計算の方法については別紙1のとおり集計表に記載。
- 前回（第6回）の検討会でも議論となった集計処理については、平均値の集計に当たっては無回答等の調査票を除くこととしていたが、論理的にはあり得るが通常想定しにくい回答などの処理については、原則として集計の対象として含めることとしつつ、外れ値として当該回答を除いたものも併せて集計した（別紙1のとおり）。

(2) 階級を含めた場合の労働時間について

- 適用労働者票及び非適用労働者票における1週間の実労働時間については、労働時間数そのものの回答と労働時間の階級を選択した回答のどちらも許容しており、それぞれの回答数の割合は、以下のとおりであった。

	適用労働者	非適用労働者
労働時間数で回答した労働者	79.2%	82.8%
労働時間の階級で回答した労働者	19.1%	15.1%
不明	1.7%	2.1%

- 階級での回答を含めた場合と除いた場合の適用労働者・非適用労働者の1週間当たりの労働時間の分布は以下のとおり。なお、階級での回答に対し、労働時間での回答の平均値を充てることと最頻値を充てることでは大きく集計値が変わらないと考えられることから、平均値を充てる方法で集計した。

【適用労働者】

<総数> (単位：%)

	計	30時間未満	30時間以上35時間未満	35時間以上40時間未満	40時間以上45時間未満	45時間以上50時間未満	50時間以上55時間未満	55時間以上60時間未満	60時間以上65時間未満	65時間以上70時間未満	70時間以上75時間未満	75時間以上80時間未満	80時間以上	分からない	不明
階級での回答を含む	100.0	3.4	4.9	9.2	26.9	21.0	17.1	6.4	4.4	1.7	1.5	0.5	1.2	0.4	1.3
階級での回答を含まない	100.0	3.8	5.3	9.5	28.0	21.4	17.8	5.8	4.3	1.3	1.3	0.5	1.0	-	-

【非適用労働者】

<総数> (単位：%)

	計	30時間未満	30時間以上35時間未満	35時間以上40時間未満	40時間以上45時間未満	45時間以上50時間未満	50時間以上55時間未満	55時間以上60時間未満	60時間以上65時間未満	65時間以上70時間未満	70時間以上75時間未満	75時間以上80時間未満	80時間以上	分からない	不明
階級での回答を含む	100.0	3.7	5.8	14.2	31.0	20.8	12.7	4.4	3.2	0.9	0.5	0.3	0.5	0.2	1.7
階級での回答を含まない	100.0	4.0	6.3	15.1	32.6	21.0	12.5	4.1	2.7	0.8	0.5	0.3	0.3	-	-

2. 本体調査における集計事項以外の項目について

(1) プレ調査について

- 非適用事業場の標本作成のためのプレ調査の回答状況等については以下のとおり（概要にも記載）。

調査種別	調査客体数	有効回答数	有効回答率
非適用事業場調査・プレ調査	209,496	115,764	55.3%

※ (参考) 本体調査全体の回答状況

調査種別	調査客体数	有効回答数	有効回答率
適用事業場調査	11,750	6,489	55.2%
非適用事業場調査	15,499	7,746	50.0%
適用労働者調査	104,985	47,390	45.1%
非適用労働者調査	104,375	40,714	39.0%

※ 二次利用に当たっては、統計法の取扱いに則って対応することとしたい。

## (2) 自由記述について

○ 今回の裁量労働制実態調査においては、次の事項について、自由記述での回答欄を設けている。

- ・見直すべき制度内容についての意見（全調査票）
- ・対象労働者の範囲（狭い・広い等と回答した場合における具体的意見）に関する意見（全調査票）
- ・制度の手続負担に関する意見（適用事業場票）
- ・現在の働き方に関する評価（適用労働者票、非適用労働者票）

○ 自由記述の集計に当たっては、「統計調査の目的は、平均的な姿や全体の分布を知った上で、中間的な姿を把握するところにあると思うが、自由回答は、必ずしも代表的ではない極端な意見が、全体の印象を引っ張ってしまうこともある」や「カテゴリーをつくるというのも、一種の判断というか、主観が入るような部分になるのでちょっと難しい」といった意見を踏まえ、今回二次分析の中でテキスト分析を行っていただいたところ。

○ 自由記述の取扱いについては、回答の内容が統計法上調査票情報に該当するものであるため、集計することなく自由記述の回答を原文のまますべて公表することは認められていない。自由記述の回答内容については二次分析の中でテキスト分析を行っており、当該テキスト分析の結果をもって統計法第 32 条（二次利用）に基づき集計した結果の公表とすることとしたい。

※ 二次利用に当たっては、統計法の取扱いに則って対応することとしたい。

## 3. 達成精度について

(※) 達成精度とは、標本抽出による集計値の誤差の大きさを推計したものであり、標準誤差（集計値の標準偏差）の推計値（又は標準誤差の推計値を集計値で除したもの）で表される。

○ 達成精度を計算する集計項目としては、全 4 種類の調査票に共通している質問項目であることが望ましいこと、客観的かつ重要な質問項目であることから、「労働時間の把握方法の問」について、達成精度を計算することとしていた。

（適用事業場票問 9、非適用事業場票問 8、適用労働者票問 4、非適用労働者票問 3）

○ 計算をした結果は別紙 2 のとおり。

## 4. フィッシャー式での労働時間の比較について

○ 適用事業場と非適用事業場の労働時間の比較に当たっては、業務を基本として、可能であれば企業規模を組み合わせることにより区分を作成し、比較に当たっての加重平均を行うこととし、適用事業場と非適用事業場のどちらか一方のウエイトに寄せることなく、フィッシャー式で加重平均を行うこととしていた。

(参考) フィッシャー式での計算方法

$$\text{フィッシャー式による平均値 (適用)} = \sqrt{\left(\sum_i T_i^{(\text{適用})} w_i^{(\text{適用})}\right) \left(\sum_i T_i^{(\text{適用})} w_i^{(\text{非適用})}\right)}$$

$$\text{フィッシャー式による平均値 (非適用)} = \sqrt{\left(\sum_i T_i^{(\text{非適用})} w_i^{(\text{非適用})}\right) \left(\sum_i T_i^{(\text{非適用})} w_i^{(\text{適用})}\right)}$$

i : 属性 (業務 又は 業務×企業規模) を表す添え字

$T_i^{(\text{適用})}$  : 属性iの適用事業場 (又は適用労働者) に係る平均労働時間 (又は平均労働日数)

$T_i^{(\text{非適用})}$  : 属性iの非適用事業場 (又は非適用労働者) に係る平均労働時間 (又は平均労働日数)

$w_i^{(\text{適用})}$  : 適用事業場 (又は適用労働者) に係る属性iの労働者数 (又は労働日数) ウェイト

$w_i^{(\text{非適用})}$  : 非適用事業場 (又は非適用労働者) に係る属性iの労働者数 (又は労働日数) ウェイト

- 適用労働者・非適用労働者も含めたフィッシャー式による労働時間の加重平均の結果は別紙3のとおりであり、業務と企業規模の構成比を適用・非適用で揃えて計算した場合であっても傾向は変わらないため、集計結果における適用事業場と非適用事業場及び適用労働者と非適用労働者の間の労働時間の差は業務や企業規模の構成比の違いによるものではないことが確認できた。